

## 黄金の道

世界遺産平泉ゆかりの

## 秀衡街道



中尊寺金色堂新覆堂(平泉町)

平泉藤原氏の黄金文化を支えた鉱山群の一つ  
鷲之巢金山跡(西和賀町)

## 秀衡街道のあらまし

平安時代末期、東北地方を治めていた平泉藤原三代秀衡と黄金文化にちなんで名づけられた「秀衡街道」が、岩手県北上市から西和賀町を経て、秋田県横手市まで数十kmにわたって今に息づいています。

秀衡街道は、奥羽山脈のほぼ中央部を、北上川支流の和賀川と雄物川支流の横手川が浸食した、その山あいの横断谷を縫うように結ばれています。

この道の最大の難所である和賀の仙人峠に、藤原秀衡が仁平年間（一一五一～五四）に、先祖の霊を仙人権現（現久那斗神社）として鎮座したと伝えられ、この神社の里宮が東西に勧請されています。

東の里宮は北上市和賀町岩沢の多聞院伊澤家（国指定重要文化財）の久那斗神社、西の里宮は横手市内筏の筏隊山神社（筏の仙人様）です。

秀衡街道は、「黄金の道」とも称され、「たぬき掘り」の鷲之巢金山や畝倉山・明戸山などの金山跡、「秀衡掘り場」や「金商吉次の隠し金山」の伝承も残されています。

樹齢千年の秋田県指定天然記念物「筏の大杉」、「全国森の巨人たち百選」に選ばれた仙人峠の「姥杉」などの神木も、この道のシンボルとなっています。

秀衡街道の所在を、岩手・秋田両県の先人達は、八百余年にわたって語り継ぎ、歴史と文化を今日に引き継いできました。